



## 岡本太郎が赤色を愛好した理由

芸術家の岡本太郎（1911-1996）は、『美の呪力』（新潮文庫、1971、2004）で、「人間文化には、根源の時代から、儀式があり、祭りがあった」（op. cit., 15）と捉え、「瞬間的な祭りの高揚、精神の緊張だけで絶対者と通じる世界」（p. 21）や『『空』のキヨラカさ』（p. 22）を重視していた。

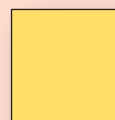
そして、「幼い時から、『赤』が好きだった」（p. 82）、「派手な明るい、暢気（のんき）な赤ではなくて、血を思わせる激しい赤」（ibid.）と言及している。

岡本は、「後年、私は原色、とりわけ赤をよく使い、その点で抵抗もあったが、幼な心にすでに惹（ひ）かれていたのだ」（ibid.）、「自分の全身を赤にそめたいような衝動。この血の色こそ生命の情感であり、私の色だと感じつつづけていた」（p. 83）と述べている。

さらに、「古代の血は超越と交流する神聖な生命であった」（p. 96）、「太陽の存在と自分たちの存在を」（p. 94）同時的に捉えており、「太陽は生命の凝縮、エネルギーの塊である」（ibid.）と言及している。岡本にとって赤色は、過去・現在・未来を貫いて流れる人類の生命力や命の連鎖、生命の循環エネルギーを象徴する色であった。（吉村耕治）

## ● 色名に採用したい季語ー4

● 河骨色（こうほねいろ）・初夏  
スイレン科の水草の黄色い花の色。  
(M10 Y70)



● 青梅色（あおうめいろ）・初夏  
梅の枝に付いている青い梅の実の色。  
(C50Y40 K10)



● 枇杷色（びわいろ）・初夏  
枇杷の実の赤みを帯びた黄色。  
(M30 Y70 K5)



● 豌豆色（えんどういろ）・初夏  
エンドウ豆の鞘や中の豆の表面色。  
(C60 M5 Y70)



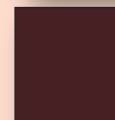
● 青田色（あおだいろ）・盛夏  
稲の苗が程よく伸びて、清々しい  
稲田の色。  
(C60 M10 Y70)



● 日焼色（ひやけいろ）・盛夏  
日光浴で焼いた皮膚の色。  
(M50 Y50 K30)



● 伽羅落色（きゃらぶきいろ）・盛夏  
落を醤油で煮染めた佃煮の  
色。  
(C80 M100 Y100 K30)



● 雨蛙色（あまがえるいろ）・盛夏  
日本アマガエルの皮膚の色。  
(C40 Y70 K20)



（永田泰弘）

## ● 妖怪の道・水木しげるロード紹介

環境色彩研究会の主催のWEBミーティングです。街並み景観改善のヒントを探る目的で、鳥取県境港市と東京都調布市の水木しげるロードを、私、永田 泰弘が紹介します。

日本色彩学会員は誰でも参加できます。

今年は「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な水木しげるの生誕 100 年に当たります。境港市の 800m の水木しげるロードでは 177 体の妖怪のブロンズ像群が観光客を迎えています。

魅力ある町並景観とは何かを前提として、町づくりの材料として、アニメ大国日本のコミックキャラクターという文化的資源が、どう使えるかを議論して行きたいと思います。

紹介するパワーポイントの大部分は学会の「色彩データライブラリ」から、100 円の廉価で入手できますので、学会事務局に依頼して積極的に活用されることお勧めします。

◆ZOOM によるオンライン開催

◆日時：12月7日（火）20:00~21:00

◆申込フォーム（参加費無料）

<https://forms.gle/AFHAv66X64RXCFLk9>

◆メールでお申込みいただく場合は、  
kyoko.hagiwara@jp.sunstar.com

◆申込締切：12月4日（日）（永田泰弘）